

①事業の基礎情報

事業名	観光推進事業				担当部・グループ名	都市政策部 地域産業グループ				
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度				担当 GL 氏名	板倉 宏幸				
新規・継続の別	継続事業				電話番号(内線)	52-1111(内線 273)				
総合計画 (基本計画) 体系	個別目標	(6)産業を活性化して、まちを元気にします。				予算・事業上の 予 算 書 上 の 予 算 名	款	7款 商工費		
	こんなことに取り組みます	自然・伝統文化・施設などの地域資源をつなぎ、市民・事業者・関係機関とともにまちの魅力を高め、賑わいの創出や交流人口の拡大に向けた取り組みを行います。					項	1項 商工費		
							目	3目 観光資源開発費		
	みんなで目指すまちづくり 指標名	行政がかかわるイベントの来場者数					事業名	1 観光推進事業		
現状値 (H25)	76,000	実績値 (H26)	99,000	実績値 (H27)	96,000	実績値 (H28)	目標値 (H29)	100,000	(単位) 人	
					総合戦略	■該当する □該当しない				

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★何度も足を運びたいくなるまちを目指し、市民と共に地域資源を掘り起こし、誇りや愛着、おもてなしの心を育みながら、「見る」「食べる」「楽しむ」「学ぶ」場としての魅力を磨いていくことが大切であるため、関係機関と連携し観光PR等に努めていく。			
	★観光協会が自立し、独自性が高く収益のあげられる観光業務が可能になる方策を検討する。			
	対象(誰・何を対象に)	市民	対象の数量	46,373 人
	最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆市内関連団体(観光協会、かわら美術館、商工会)との連携体制を強化することで、観光資源の発掘や特産物の販路の拡大につなげる。		



③事業にかかる事業費概要

平成 27 年度 (当初予算額)		決算額		主な内容
事業費総額 (千円)		11,055	13,052	
財源内訳	一般財源	11,055	11,052	
	特定財源	国・県支出金	—	2,000
		その他	—	—
補助事業・単独事業の別		単独事業	補助事業	



▲鬼みち散策



▲オニマルシェの様子

④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

実施内容	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
	◆オニマルシェの開催に対する支援を行った。	毎月1回	4,910人
	◆観光案内所(ONI+House)での特産物販売に対する支援をした。	H27.4~	年間売上高 3,266千円
	◆鬼みちまつり開催準備(鬼あかりランプシェード製作)に対する支援をした。	H27.5~	2,300個
	◆市内外への情報発信に対する支援をした。	随時	62回/年間
	◆鬼みちまつり実行委員会が実施する鬼みちまつりに対し、職員の人的支援や関係機関との調整を図った。	H27.10	秋：38名 春：26名
	◆鬼みちまつりアンケートの実施(対象：来場者・出展者)	H27.10 H28.2	来場者：148人 出展者：21店舗
	◆ふるさと寄付金ラインナップの充実の連携を図った。	H28.3	10品目追加
	◆B-1グランプリなど市外の高浜市PRイベントに参加し高浜市をPRする。	通年	13回
◆西三河広域観光協議会にてWebガイドによる周遊ルート作成システムを作成した。	H28.3	H28.3 運用開始	
参画・協働・ 情報共有の工夫	★高浜市観光協会および鬼みちまつり実行委員会の会議に参加し、メンバーと活動内容の情報共有を行うことで、市民の自主性を尊重し、かつ観光事業が行政からの丸投げにならないよう配慮している。		
進捗状況	当初掲げた計画通り、順調に進めることができた。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	☆ オニマルシェが市民に周知されつつある中、高浜とりめし学会によるB-1グランプリ出場決起大会の会場として利用する等、賑わいの場の創出から市民の活動のPRの場として活用されるようになり、情報発信の場としての位置づけが整いつつある。 ☆ 鬼みちが「新日本歩く道紀行100選」に選ばれ、今まで以上に賑わいが出てきた。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成27年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
(1) 市内外への高浜の魅力の情報発信 ・高浜の魅力を市民に周知し、市民の高浜への再認識を進めると並行し、その魅力を市外の方が触れ、高浜に訪れることで市民の高浜への更なる愛着、誇りにつなげる必要がある。	・メディアへのイベントや取組の情報発信やB-1グランプリ出場(青森県十和田市)などの市外における活動において高浜市のPRを継続し、取材件数を増やすことで多くの方に高浜市の魅力を周知する。
(2) 新たな観光資源の発掘 ・観光案内所創造委員会の活動として高浜市観光協会の会員団体が保有しながらも認識していない観光資源を発掘し、高浜市域全体の魅力を集約することが必要である。	・問い合わせの観光協会への集約と案内情報の充実を図るとともに、観光協会会員である観光関連団体の協力を体制を整え、市外から訪れる来訪者や団体に高浜の魅力を伝える受け皿を充実することで市外の目から見た新たな観光資源を発掘する。
(3) 観光ビジネスによる収益の確保 ・観光協会の自立性の実現のため、高浜市のPRだけではなく、協会自体のビジネスにつながる仕組みを構築し、観光協会の活動の原資になる資金を作る必要がある。	・行政業務において観光につながる事業の切り出しを行い、高浜市観光協会が収益を得ることができ、収益を活動に充てることで更なる事業展開につなげる仕組みを構築する。また、次のステップとして観光事業が産業振興につながるよう推進する。

⑥課題解決に向けた平成28年度の具体的なアクション(案)

計画(案)	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに(年月)
	◆鬼みちまつり実行委員会が実施する鬼みちまつりに対し、職員の人的支援や関係機関との調整を図る。	H28.10
	◆観光案内所創造委員会に参加し、共に新たな観光資源の発掘を行う。	H29.3
	◆ふるさと寄付金ラインナップの充実のために連携を図る。	H29.3
	◆B-1グランプリなど市外の高浜市PRイベントに参加し、高浜市をPRする。	H29.3
◆観光協会が行う発掘された観光資源の有効的なPRを支援する。	H29.3	
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆高浜市観光協会および鬼みちまつり実行委員会の会議に参加し、メンバーと活動内容の情報共有を行うことで、自主性を尊重し、かつ観光事業が行政からの丸投げにならないよう配慮する。	

特記事項